



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2021年10月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



新型コロナ感染症の長いトンネルを抜けて、やっと感染状況改善の兆しが現れてまいりました。

今秋は、運動会等、屋外活動を再開された園も多かったようです。何よりもです。
感染症がこのまま収束に向かい、通常の保育が戻ってくることを強く願っております。
写真のどんぐりは、そんな状況の中で東北の子どもたちが拾ってくれたどんぐりです。
今年も、皆さんのお手元に届きます。大切に育てていただければと思います。

(目次)

1. リレーエッセイ特別寄稿
2. 「全国集会&研修会2022」参加者募集のご案内
3. 「東北復興グリーンウェイブ」今年も、東北のどんぐりを送ります。

■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営 : NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会



1. リレーエッセイ特別寄稿

「子森通信」では、保育・幼児教育において、優れた研究や活動に取り組んでいらっしゃる方々に、3か月交代でリレーエッセイをお願いしております。4月号からは、公益社団法人こども環境学会 代表理事 / 東京工業大学名誉教授 仙田 満先生に7月号からは、保育環境研究所ギビングツリー代表 / 新宿せいが子ども園 園長 藤森平司先生にお願いしました。

そして、10月号からは、全国保育士会 副会長 認定こども園あけぼの愛育保育園 園長 北野 久美先生にお願いしました。今月号は、新連載記念拡大版として、コロナ禍での保育の最前線をレポートしていただきました。

コロナが浮き彫りにしたモノ、コト、ヒト～それぞれのコロナ～

認定こども園あけぼの愛育保育園 園長 北野久美

COVID-19がやってきた

2020、2月クイーンエリザベス号が横浜港に着船し、感染対策の重装備で船内に入る医師団の様子が報道されたときから、2年近くマスク生活が続くと誰が想像できたでしょう。

もちろん武漢での様子や、あっという間に感染が広がり、世界規模でのパンデミックとは表現され、有名人が相次いで亡くなったこともあり、恐怖心が駆り立てられました。一方で夏には収束するのではと楽観視する声もあり、新型インフルエンザとは異なる強い感染力であるとは思っていたものの、子どもの命を預かる保育現場は戸惑いを隠せませんでした。

WITHコロナ～5つの段階に分けての整理～

私は、これまでの展開を5つの段階に分けて整理しています。

刻々と変わる状況に対して、何を重要視し、何が現場でできたのかを整理し記録しておくことは専門職として大事なことです。

- 1：1回目の緊急事態宣言～5月
- 2：新しい生活様式へ
- 3：10月以降保育の充実期
- 4：2年目のスタート（経験値とスキル）
- 5：緊急事態宣言後（先の見えない感染対策）



【園での取り組み】
本当に大変なのは、緊急事態宣言後
「新しい生活様式」になってからの
保育の受け入れ

出席をタブレットにタップ



足跡マークで
ステイ！？

2列に並んで待つ

昨年の3～5月、学校や公共施設が休校、休館する中、保育はその事業を止めませんでした。保育には子どもの健全育成という使命と共に、保護者の就労支援、社会進出の担い手であるという課題、さらに地域の子育て支援も担っていることから、簡単に休園はできません。

とはいえ、感染拡大防止のための限定開園はちょうど年度の変わり目でもあり、これまでに無い戸惑いでした。自園でも43%が医療、福祉関係者ですから、国の提唱する、8割減の人数には程遠く、平均して4割弱の子どもたちを受け入れていました。マスクも消毒も入手困難な中での保育者たちの努力には本当に感謝しかありません。何しろ子どもたちの過ごす保育の現場は人も密、関係性も密、その密こそが信頼関係愛着形成に必要なのですから！

6年間の保育の集大成である卒園式やこれから長い集団生活の一步を踏み出す入園式といった節目の行事もままならず、ましてや先生の顔も名前も知らないまま家庭保育の親子へのフォロー、日々緊張感をもって仕事をしている保護者への支援で、保育現場は試行錯誤の日々でした。SNSのフル活用で、保育のあれこれ、子育て支援に役立つ情報、時には栄養士による夕食献立作成等のYouTubeやメール配信、一人一人にあてた郵便、園庭開放、図書図鑑の貸し出し等と可能な限りの支援を、精一杯の努力で乗りきりました。新しい生活様式が始まってからは、玄関までの保護者の送迎、他者を園内に入れない体制が続いていますから、保育者の業務は以前よりも増えるばかり・・・

さらに、10月以降は子どもにとっては遠足や運動会といったお楽しみもたくさんある季節であると同時に、インフルエンザや他の感染症も気になる季節。出来る感染症対策は尽くしているものの緊張感も高まります。

終息の影さえ見えない2年目に入り、その経験値での対応を求められる中、すっかり定着した消毒や手洗いといった衛生面は何とかクリアできて、長引くマスク生活や小集団での活動に、子どもの育ちへの懸念もぬぐえません。

さらに変異株は子どもにも感染し、クラスターの発生や陽性者数増で臨時休園を余儀なくされた園も目立つようになりました。RSウイルスも流行、さらに台風や大雨といった自然災害も加わり、保育者たちの努力だけでは保育の保証が難しいことも出てきました。

せめてもの安心材料は、多くの地域で実施された保育者へのワクチン優先接種です。感染に関して不安を抱えながらの保育ですから、せめて罹患しても重篤化しないワクチン接種は安心感につながりました。

コロナで浮き彫りに～

5段階に整理してみると、大きく3つが見えてきます。

- ・コロナ禍にあっても、なぜ保育や保育者の学びは止まらなかったのか
- ・保育者の役割や使命を社会全体が共有できたのではないのか
- ・専門職としての認知は高まったのか

振り返って出来たことは整理すると、そのほとんどは自助努力。限定開園時にできたゆるやかな人員配置、子どものことを語ったり、支援の方法を考えたりする時間があつたから、保育理念を共有する時間も持つことが出来たのであり、これが本来の姿であると思うのです。行事や業務の見直しで、かなりの断捨離はできましたが、感染拡大防止の観点で、地域の子育て支援への課題が残っていることも事実です。前述したように子どもの育ちへの懸念はぬぐえません。しかし、一方で保育が無くてはならない存在だといった認知も浸透し、これまでのシャドウワークに光が当たってきたのです。

この間、家庭で十分にできなかった戸外での活動も、園なら存分にできています。環境との相互作用で発達する子どもの育ちを、できるだけ豊かにと工夫してきたのですから、好機と受け止め、専門性について内輪でも大いに議論し、外部に対してエビデンスをもって発信したいものです。



キーワードは知識・仲間



キーワードは意識・仲間

★information : 北九州市保育士会 YouTube

下記アドレスにて、北野先生が会長を務めておられる「北九州市保育士会」の活動がご紹介されています。

⇒ <https://www.youtube.com/channel/UChnk9anR2i5yheiBrDQ05Bg>

* 右のQRコードからご覧いただけます。



2. 「全国集会&研修会2022」参加者募集のご案内



全国の保育者、及び保育関係者が、より良き保育づくりのための情報交換と交流を目的に集う、J P 子どもの森づくり運動「全国集会 & 研修会 2022」福井大会のご案内です。

1日目は、これからSDGsの時代を生きていかなければならない子どもたちに、持続可能な環境の心を育む環境学習（教育）を考えます。さらに、園庭を多様な自然と環境の体験フィールドとして緑化することを目指す「園庭緑化運動」2年間の活動を総括します。

2日目は、保育施設オリジナルの防災づくりを目指す「保育防災アクションマイスター認定講座2021」の活動発表と認定者（園）1期生の認定式を開催します。

コロナ禍の事情で、会場参加者数が限られています。会場参加ご希望の方は、早めのお申込みをおすすめします。

●開催概要

1. 日時：2022年2月14日(月)13:00～17:30 2月15日(火)10:00～14:30
2. 会場：「福井市地域交流プラザ（アオッサ）」研修室601B、C（JR福井駅東口から徒歩1分）
3. 主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（子森ネット）
4. 共催：認定こども園 大野幼稚園 国際校庭園庭連合日本支部
5. 特別協賛：日本郵政グループ
6. 後援：（公社）こども環境学会 （公社）大谷保育協会
7. 協力：（公社）全国私立保育連盟 （公社）国土緑化推進機構 保育環境研究所ギビングツリー、他
8. 募集方法：会場参加とオンライン参加併用のハイブリッド方式での募集とします。
9. 募集対象者：保育園（所）、幼稚園、こども園の保育者、及び保育関係者
10. 募集人数：★会場参加者（30名）★オンライン参加者（50名）＊定員になり次第締切ります。（先着順）
11. 講師：【基調講演】環境教育としての自然体験～こどもの自然体験の重要性～

北海道教育大学 教育学部 岩見沢校アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩（のうじょう あゆむ）氏

【「園庭緑化運動」活動報告】

田園調布学園大学大学院 人間学研究科 子ども人間学 専攻 准教授 仙田 考（せんだ こう）氏

【保育防災講座】

消防庁アドバイザー 株式会社タフ・ジャパン 代表取締役 鎌田 修広（かまた のぶひろ）氏

★その他、詳細は、同封の募集チラシをご参照願います。ホームページからもお申込みいただけます。

3. 「東北復興グリーンウェイブ」今年も、東北のどんぐりをお届けします。

今年も、東北からどんぐりが届きました。今年も、岩手県宮古市の「あかまえこども園」（写真右上）と大槌町「つつみこども園」（写真右下）の子どもたちが拾って、子森ネット塚原代表に手渡してくれました。

東北のどんぐりは、現在、事務局の冷蔵庫で大切に保管されています。今後、保湿されたジップロックに袋詰めされ、11月の1週目を目安に、「東北復興グリーンウェイブ」参加園に届けられます。

